令和5年度 事業概要



令和5年度 利根川上流河川事務所 事業費

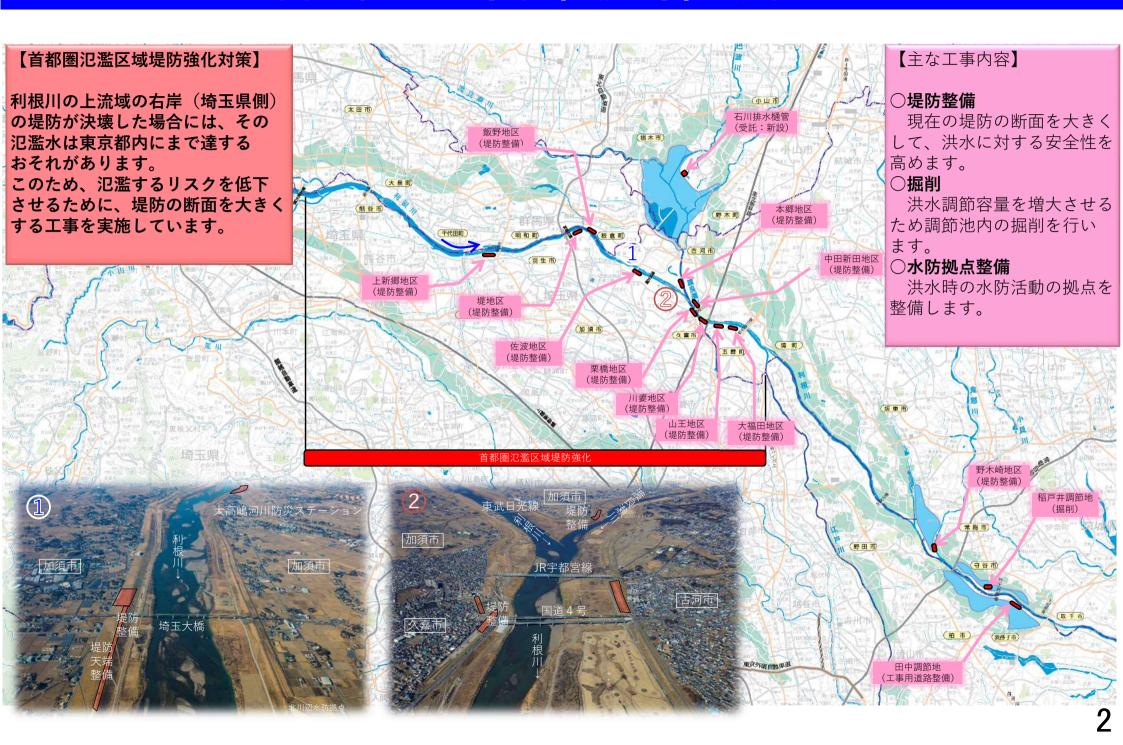
予算項目	令和5年度	令和4年度			当初予算
	当初予算	当初予算	補正予算	最終	比較 (R5/R4)
河川整備事業費	10,696	9,960	4,238	14,198	1.07
河川改修費	6,988	6,339	3,235	9,575	1.10
一般改修	5,928	6,225	3,235	9,460	0.95
一般改修 (大規模)	1,060	114	_	114	9.29
河川維持修繕費	2,642	2,556	782	3,338	1.03
河川工作物関連 応急対策事業費	33	30	_	30	1.10
堰堤維持費	1,033	1,035	220	1,255	1.00
都市水環境整備事業費	_	331	_	331	_
河川都市基盤整備事業費	_	331	-	331	_
合 計	10,696	10,291	4,238	14,529	1.04

[※]上記のほか、諸費等があります。

[※]端数は、それぞれ、百万円単位で四捨五入しているため、一致しないものがあります。

^{※1} 防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策

令和5年度 主要事業(改修工事)箇所位置図

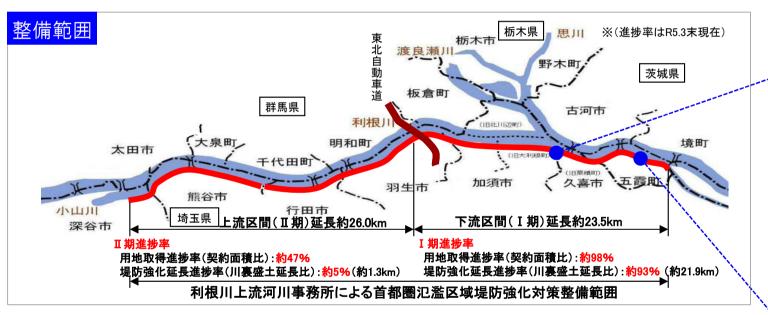


首都圏氾濫区域堤防強化対策

利根川上流部の右岸堤防において洪水時に決壊が発生した場合、その氾濫流は埼玉県内に留まらず東京都内まで達します。この氾濫流がもたらす広範囲の壊滅的な被害や、首都機能の麻痺による影響は全国に及ぶ恐れがあります。

昭和22年(1947年)のカスリーン台風では、この区間で堤防が決壊し、広大な範囲に甚大な被害をもたらしました。

このような災害を二度と繰り返さないよう、堤防の断面を拡幅し、洪水時の水の浸透に対する安全性を向上させる「首都圏氾濫区域堤防強化対策」を推進しています。



進捗状況写真



久喜市旗井地区

【令和5年3月撮影】



五霞町大福田地区^{【令和5年3月撮影}】

首都圈氾濫区域堤防強化対策(栗橋地区進捗状況写真)



首都圏氾濫区域堤防強化対策(栗橋北地区進捗状況写真 Google Earthより)





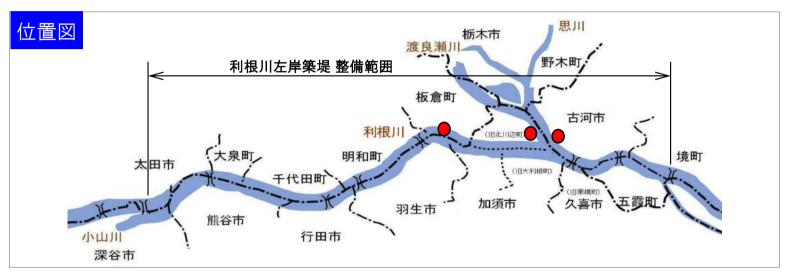


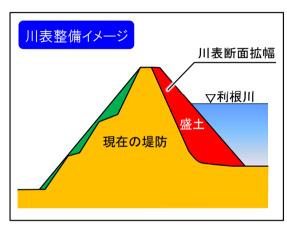


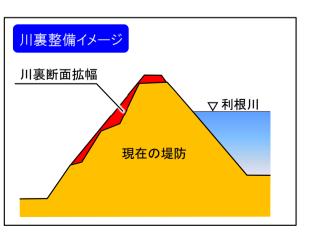
利根川左岸築堤

利根川上流部の左岸堤防において決壊が発生した場合、区間によっては湛水深が深く、多数の人命が危険にさらされるなど、地域への甚大な影響が想定されます。

このため、堤防の拡幅による治水安全度の向上を図っており、利根川沿いの加須市北川辺地区で対策が完了したほか、古河市、板倉町等においても対策を進めています。









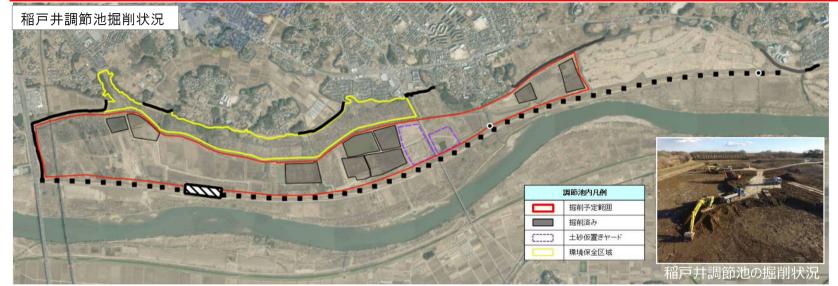
完成(川裏整備:板倉町飯野地先)



完成(川表整備:加須市本郷地先)

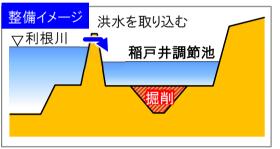
稲戸井調節池整備

- 平成21年度に越流堤を整備したことにより稲戸井調節池は概成し供用を開始しています。
- 稲戸井調節池の洪水調節容量は、約2,700万m3(H25.5「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画」)に対して約1,900万m3であり、約800万m3不足していることから、現在掘削事業を進めています。



【主な工種の進捗状況】

主な工種	全体計画	R5.3末時点
池内掘削	800万m3	約255万m3
用地·補償	330万m2	約314万m2





稲戸井調節池は、茨城県取手市と守谷市に位置し、田中調節池及び菅生調節池と一体となって、 洪水を調節池内に取り込み、 利根川の水位を下げることで、 下流域の治水安全度を高めます。

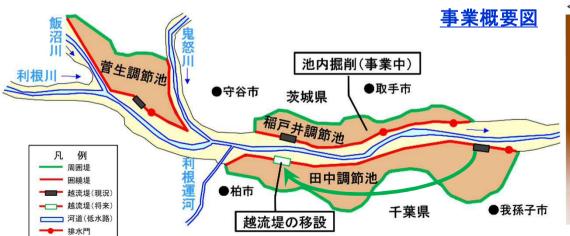
令和元年東日本台風の際は、 3つの調節池の合計で、過去 最大となる約9,000万㎡の洪水 を貯留し、その洪水貯留効果を 発揮しました。

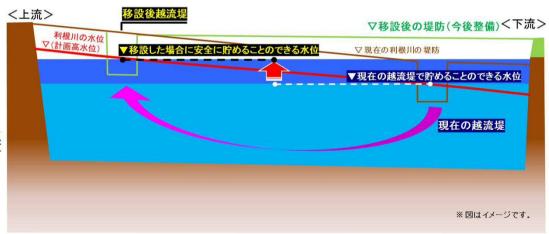
田中調節池整備

- 令和5年度より洪水調節機能の向上を図るため、越流堤移設及び調節池の周囲堤や囲繞堤のかさ上げ等を 実施します。
- 今後、地元調整を重ねながら基礎調査、設計、工事を進めていきます。









調節池の堤防をかさ上げし、あわせて越流堤を約6.2km上流に移設し、調節池の 貯留水位を約80cm上げることで洪水調節容量の増加(約1,100万m³)を図る。

河川防災ステーション等活動拠点整備

河川防災ステーションは、様々な災害に備え、被災時にすみやかに堤防の復旧などを行うための拠点です。 コンクリートブロックや割栗石など復旧に必要な資機材を備蓄するほか、資材の搬出入や建設機械の活動、水防 活動に必要なスペース、ヘリポートなどを備えています。

水防拠点は、洪水時に水防活動の拠点となる場所です。水防活動に必要な資材を備蓄するほか、河川防災ステーションと連携して被災時には災害復旧の拠点となります。

河川防災ステーション、水防拠点ともに、非常時に近隣の方々の緊急避難場所としての活用も期待されます。

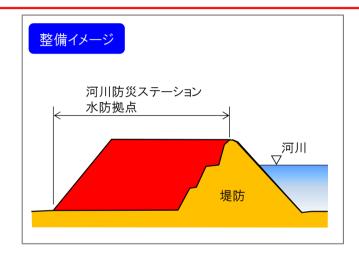
令和5年度の予定

- ★境町利根川左岸河川防災ステーション 令和5年度は用地取得と埋蔵文化財調査を実施
- ★川西水防拠点

令和5年度6月 盛土完成予定 (以降に野木町が建屋を整備予定)



思川洪水浸水想定区域図(計画規模)





川西水防拠点 R5.5施工状況(下都賀郡野木町地先)

河川管理施設の維持管理

安心・安全な川づくりをめざし、川が本来持っている治水・利水・環境の機能を保つため、日々の河川管理施設等の維持管理を行っています。

堤防除草と維持補修

堤防除草により堤防の異常を把握しやすくした上で点検等を行い、発見した異常の維持・補修を行います。

堤防の除草



堤防点検の様子







(補修事例)

茨城県古河市中田地先の 堤防法面補修工事



令和4年9月に発見した法面変状に対して令和5年1月~3月に補修を行い完了。

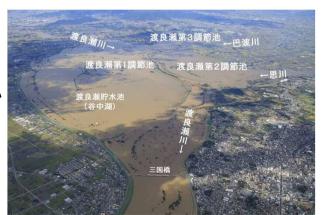
堤防については、日常の河川巡視や出水期前・台風期・出水後の堤防点検等により異常の把握を行っています。

渡良瀬遊水地の運用・維持管理

渡良瀬遊水地の中に設置されたハート型の渡良瀬貯水池は、 通称、谷中湖と呼ばれ、治水に加えて利水の機能も備えてい ます。(利水容量:非洪水期(10~6月)2,640万m3、洪水期 (7~9月)720万m3)

渡良瀬貯水池は、利根川上流ダム群と比較して首都圏に近いことから、利根川の流況が一時的に悪化した場合に、速やかに渡良瀬貯水池から放流して改善させる役割があり、上流ダム群と連携しながら効率的で、きめ細かな水運用を実施します。

また、冬期には、貯水池のカビ臭抑制を目的に貯水位を下げて湖底を直接日光にさらす「干し上げ」を例年に引き続いて実施する予定です。干し上げ、ヨシ原浄化施設や谷田川分離施設などにより、貯水池の水質保全対策を引き続き実施します。



令和元年東日本台風時の渡良瀬遊水地 (10月13日16時頃)

河川巡視及び情況把握

河川における利用状況·不法投棄などの違法 行為や河川管理施設の異常を発見するため、 河川巡視や災害時の情況把握を行います。





機械設備,通信設備の点検・整備

出水時などに河川管理施設や通信設備が正常に作動するように、定期的な点検、補修を行います。



維持管理・新技術~堤防除草への自律・自動技術の導入検討

首都圏氾濫区域堤防強化対策が進む中、法面延長が増大し除草面積が増加することから、除草の効率化を促進するため、近年進展している自律・自動技術を活用した除草機械を使用して、大利根出張所管内において実地デモンストレーション(技術実証に向けた動作確認)を実施。

金杉建設(株)が開発している除草機械を、7割堤防において試験施工





キャニコムが開発している除草機械を、養生区間において試験施工

- ・電気通信大学の田中教授の研究室に、キャニコムが 研究員を派遣し、共同研究を実施。
- •みちびき(準天頂衛星システム のセンチメータ級測位 補強サービス(CLAS)を活用した自動運転草刈機。
- •ロータリー式草刈機を使用し、電気通信大学田中研究室が開発した自律ロボットのモデル構築技術、センサ統合技術、モデルベースド制御技術を搭載、みちびきの高精度測位を活用して指定範囲を自律走行して除草作業する。





【期待効果】

- ➤ 除草コストの低減(作業員の省力化による施工単価減、将来的な省人化など)
- ➤不調不落の回避(作業員の重労働や事故の回避など)
- ▶堤防管理の質的向上(除草時期・頻度の柔軟化、堤防の外形状態情報の収集による変状の早期検知など)